

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.1/24(月) ~ R4.1/30(日)

令和4年第4週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	12534人	6882人	-	-
	② 対人口10万人	813.9人	446.9人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.82	2.68	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		88%	85%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		43.6%	39.4%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		1/30現在	1/23現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	216人	134人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	45.3%	28.1%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	4人	3人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	5.8%	4.3%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	8677人	4743人	-	-
	⑨ 対人口10万人	563.4人	308.0人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	1/30現在	1/23現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	2.5%	2.8%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.1/24 ~ R4.1/30	前週 R4.1/17 ~ R4.1/23	累計 R3.3/11 ~ R4.1/30
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	0件	2件	604件
ο株 (オミクロン)	24件	5件	60件

オミクロン株が検出された場合は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー(—)表示としてきたところですが、川崎市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週より川崎市内のオミクロン株の検出状況についても示すこととしました。

なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、昨年（令和3年:2021年）にみられたいわゆる第5波は、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして急速に減少、第49週（12月6日～12日）までは減少が続き、第50週より若干の増加傾向となりました。しかし、年が明け令和4年第1週（1月3日～9日）から第4週（今週：1月24日～30日）にかけて、重症者の入院は0～4人程度であるものの、新規陽性者数、全療養者（入院・宿泊施設・自宅）数の急速な増加がみられています。

ステージ分類は、第44週～第46週はステージⅣ・Ⅲのない状況が3週連続し、第47週～第52週は感染経路不明者の割合がステージⅣとステージⅢ解消を繰り返していましたが、その他はステージⅣ・Ⅲのない状況が続いていました。しかし、年が明け令和4年第1週は、2/6項目（検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅢ、2/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）がステージⅣとなり、第2週はステージⅢはなく、4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣとなりました。第3週（前週）及び第4週（今週）は、1/6項目（入院患者病床使用率）がステージⅢ、4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣ、となっています。

<感染の状況：直近1週間>

① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人、第49週7人と昨年で最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週に微増、年が明けて第1週522人、第2週2569人、第3週（前週）6882人と急増し昨年のピークである第33週（8月16日～22日）の4308人を上回り、第4週（今週）は12,534人とさらに急増しました。

② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第48週・第49週0.5人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週33.9人、第2週166.8人、第3週（前週）446.9人と急増し昨年のピークである第33週279.7人を上回り、第4週（今週）は813.9人とさらに急増しました。

ステージ分類は第39～52週と14週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっていました。第1週～第4週（今週）と4週連続してステージⅣとなっています。

③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週18.0と増加しましたが、第2週4.92、第3週（前週）2.68、第4週（今週）1.82と減少しています。これは、急増はしているが、その増加の割合は少し鈍ってきていることが示されていますが、このまま鈍化するのか、再び増加傾向に向かうのかは、慎重に経過を見ていく必要があります。

④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となりステージⅢ解消となりました。第42週～第52週はステージⅢ解消～ステージⅣを前後し、その後第51週（72%）～第4週（今週：88%）と5週続けてステージⅣとなっています。

⑤ 検査陽性率は、算定方法を34週から変更しており（表の説明※3）そのため連続性が失われますが、第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週～第52週は微増し、年が明けて第1週9.4%、第2週26.4%、第3週（前週）39.4%、第4週（今週）43.6%と急増しています。

ステージ分類では第38週まではステージⅣでしたが、第39～第52週は14週連続してステージⅢ解消となっていました。第1週は9.4%と上昇したためステージⅢとなり、第2週～第4週（今週）と2週連続してステージⅣとなっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 1.30 現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第 34 週（8 月 23 日～29 日）286 人をピークに減少が進み、第 49 週 2 人から第 50 週 5 人→14 人→16 人となりましたが、年が明け第 1 週 23 人、第 2 週 75 人、第 3 週（前週）134 人、第 4 週（今週）216 人と急増しています。

確保病床数は現在 477 床となっており、入院病床使用率は、第 52 週 3.4%から、第 1 週 4.8%、第 2 週 15.7%、第 3 週（前週）28.1%、第 4 週（今週）45.3%と急増しています。ステージ分類では第 39 週～第 2 週と 16 週連続してステージⅢ解消となっていました。第 3 週（前週）、第 4 週（今週）と 2 週連続してステージⅢとなっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに減少が進み、第 47 週～第 52 週は 0～1 人を前後し、今年に入っても第 1 週 0 人、第 2 週 1 人、第 3 週（前週）3 人、第 4 週（今週）4 人とやや増加しています。

重症者の確保病床は現在 69 床となっており、重症病床使用率は、第 47 週～第 2 週は 0%～1.4%を繰り返していましたが、重症入院患者の微増に伴って第 3 週（前週）4.3%、第 4 週（今週）5.8%と微増しています。

ステージ分類では第 39 週～第 4 週（今週）と 18 週連続してステージⅢ解消となっており、重症病床としては落ち着いている状態が続いています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 33 週 4143 人をピークとして減少が進み、第 49 週は 8 人となりましたが、第 50 週～第 52 週と微増が続き、年が明け第 1 週 367 人、第 2 週 1785 人、第 3 週（前週）は 4743 人と今年のピークである第 33 週 4143 人を上回り、第 4 週（今週）は 8677 人とさらに急増しています。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 33 週 269.0 人をピークに減少が進み、第 48 週 0.8 人、第 49 週 0.5 人となりましたが、第 50 週～第 52 週に微増、年が明け第 1 週 23.8 人、第 2 週 115.9 人、第 3 週（前週）308.0 人、第 4 週（今週）563.4 人と急増しています。

ステージ分類は、第 39～52 週に 14 週連続してステージⅢ解消となっていました。第 1 週はステージⅢ、第 2 週～第 4 週は 3 週連続してステージⅣとなっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株の追加はなく、令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 1 月 30 日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は 604 件のままとなっています。

新たな変異株（オミクロン株：o）が海外で増加し、国内でも急増しています。オミクロン株の公表は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っていますが、本市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第 2 週より本市内の状況を示すこととしております。なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、詳細なゲノム解析によって確定された数で、第 1 週 12 件、第 2 週 15 件、第 3 週（前週）は 5 件、第 4 週（今週）は 24 件が追加され、令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 1 月 30 日の累計は 60 件となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、新規陽性者数は令和 3 年の第 48 週、第 49 週は昨年 1 年の最低値となりましたが、第 50～第 52 週の微増傾向から年が明け令和 4 年の第 1 週～第 3 週（前週）と連続して急増し、今年のピークである第 33 週（8 月 16 日～22 日）の 4308 人を上回りました。第 4 週（今週）は 12,534 人とさらに増加しています。

重症入院患者は 0～1 人から、第 4 週（今週）は 4 人と微増にとどまっていますが、入院中患者数、入院・自宅および宿泊療養者総数の増加が著しくなっています。新規陽性者数の増加に対し、重症患者数は幸いに今のところは少なく、重症病床としては比較的落ち着いている状況ではありますが、ステージ

分類では、第3週（前週）・第4週（今週）は1/6項目（入院患者病床使用率）がステージⅢ、4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣの状況が2週連続しています。

これまでの国内外の報告ではオミクロン株感染者は軽症者が多いということは良いニュースであり、本市でも重症者数は極めて少数となっていますが、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数はさらに急増しています。感染の広がりスピードが速く、また急速な感染者数の増加は医療機関や保健所などでの負担の増加のみならず、一般生活に影響が及びます。また低い割合であっても感染者の急増に伴って重症者が増加する可能性について危惧されているところから、1月21日より神奈川県を含む1都3県、およびその他全国の合計1都12県がまん延防止重点措置の適応地域となり、さらに対象地域の拡大が検討されているところです。

再び普段の生活に大変なご不便、ご迷惑をおかけすることになりますが、新型コロナウイルスに感染しないよう、広がりを抑えるようにするのは、市民お一人お一人の注意によるところが大切です。感染の広がりを抑え、またご自分に及ぶリスクが少ないとしても身の回りの方が重症者にならぬよう、感染リスクが高まる行動はしばらくの間避けてくださるよう、よろしくお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、いろいろな場において感染を受けない、感染をさせないための基本的なかつ重要な注意点であり、またデルタ型ウイルスであってもオミクロン型ウイルスであっても共通の有効な予防対策法です。また、外での飲食やどちらかへお出かけになる時もあるかと思いますが、その時には感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。日常生活をより多く取り戻し、それが維持できるようになるため、ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、オミクロン株の場合、潜伏期間はこれまでのおおよそ5日間から3日間と短くなり、感染の広がりには3～4倍に早くなっているため、感染が急速に拡大していることとなります。人に感染をさせるようなウイルスは発症から9日間以内に、あるいは症状から改善してから2日間以内に消失する（人にうつさなくなる）とされています。ワクチンを2回接種した人たちは、接種していない人たちに比べて入院率・重症化率は明らかに低くなるのが内外から報告されています。一方2回の接種を受けても完全に発病を防げるわけではなく、その場合には他の人に感染を広げることもあり、また中には中～重症になる場合もあるので、3回目の接種をできるだけ受けておくことをお勧めします。